

総務常任委員会

令和元年度行政視察報告

視察期間10月23日～10月25日

視察先：和歌山県御坊市、白浜町

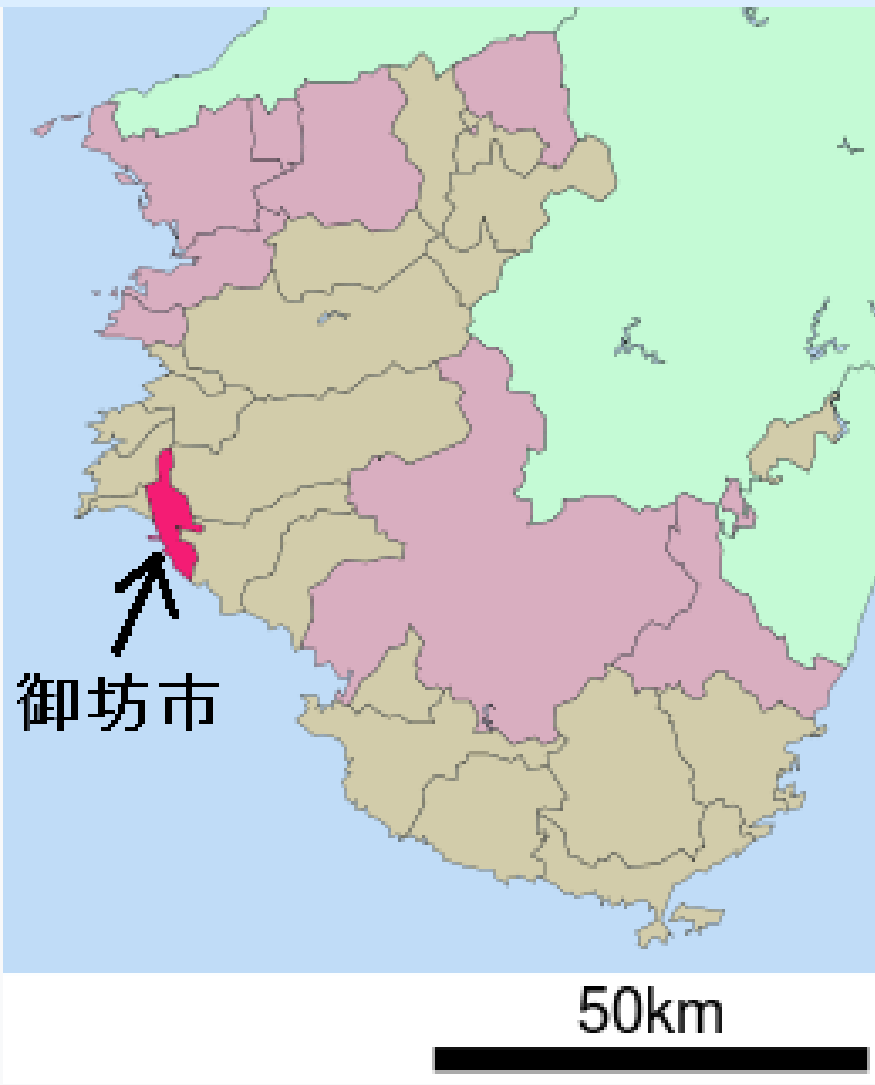
南海トラフの地震の発生状況

東海・東南海・南海地震と南海トラフ巨大地震



＜視察先を和歌山県内の自治体とした理由＞

和歌山県内の沿岸部は南海トラフ地震による津波が最も早く到達する地域であるため、津波対策への取り組みが進んでいる地域が多いので、今回の視察先を選びました。



視察地① 和歌山県御坊(ごぼう)市

総面積 43.91km²

人口 23,201人

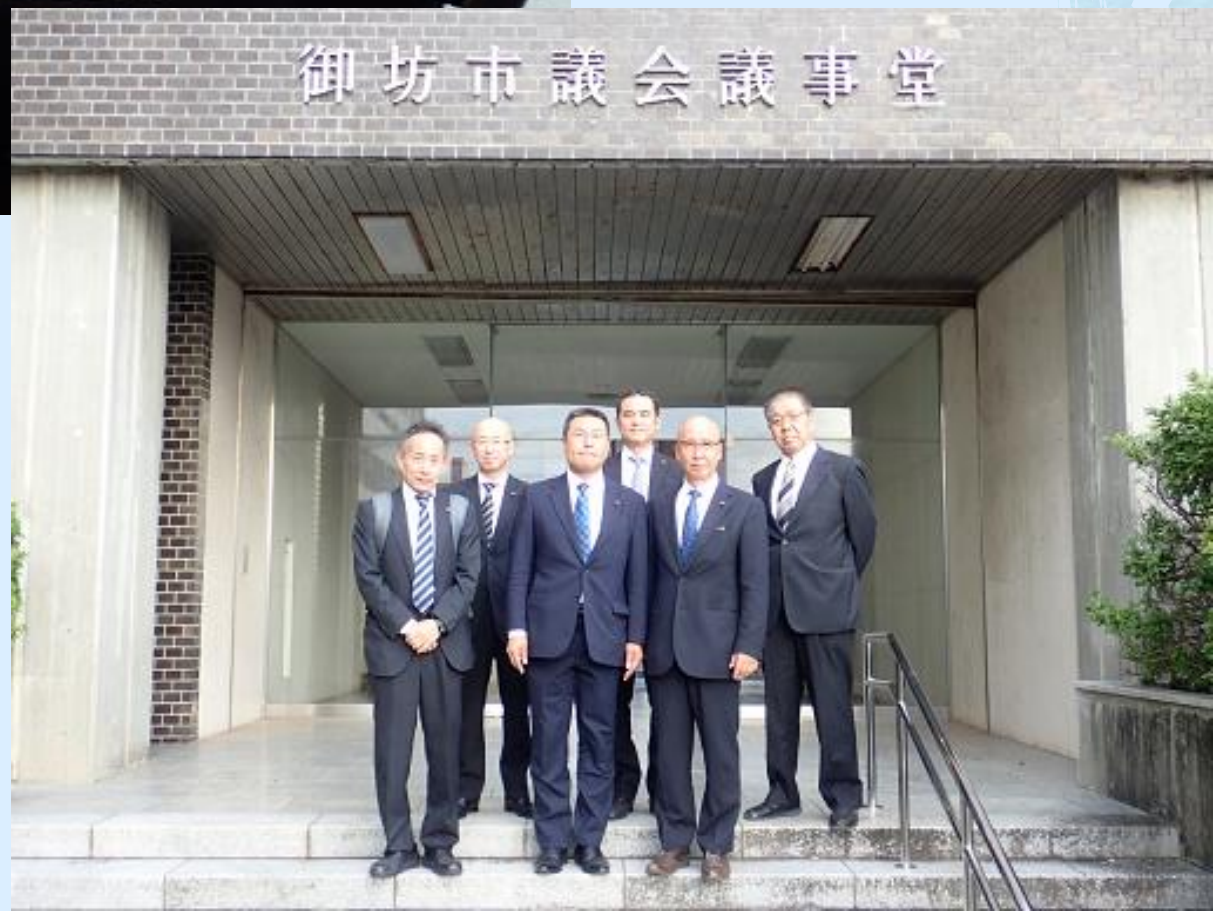
世帯数 10,825世帯
(令和元年9月末現在)

視察目的

市庁舎建設について
(2022年完成予定)
防災対策(津波)について



視察時の様子
(御坊市役所市議会
委員会室にて)



御坊市本庁舎は、昭和48年建設。
平成22年度に行った耐震調査で耐震性に問題あり。



本庁舎

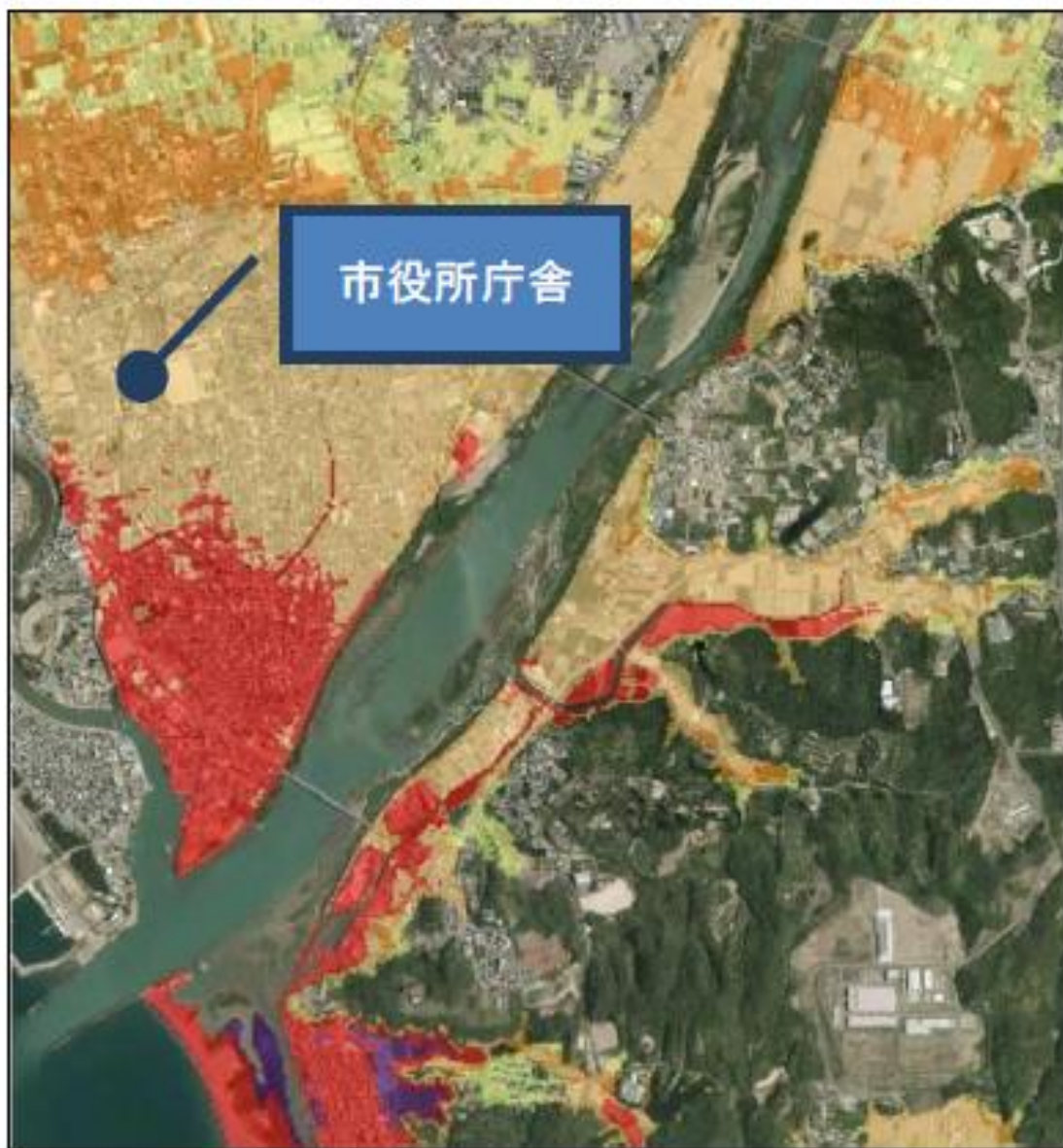


議会棟

◆図：庁舎の配置状況



◆図：南海トラフ巨大地震による浸水予想図



10.0m以上

5.0m以上 10.0m未満

2.0m以上 5.0m未満

1.0m以上 2.0m未満

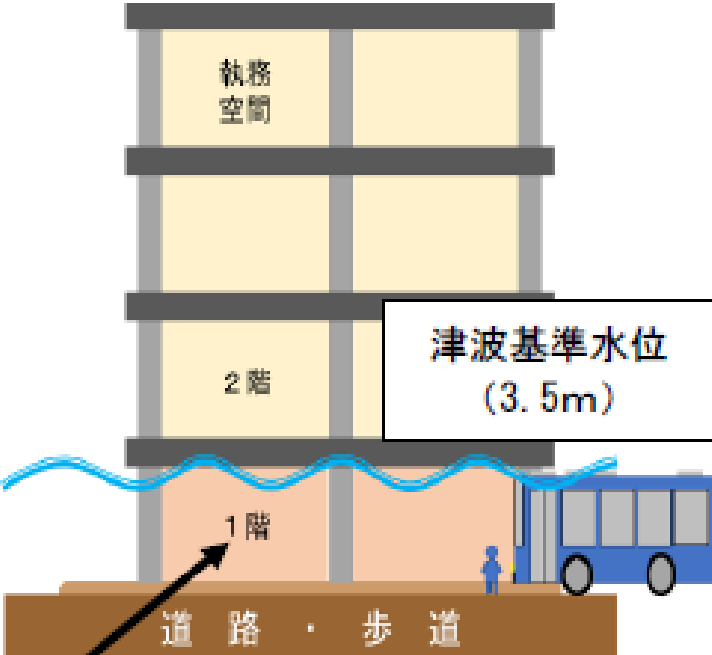
30cm以上 1.0m未満

30cm未満

◆図4：浸水対策を施した市町村庁舎の例（ピロティ形式及び建物1階にホール機能等を設置、北海道古宇郡神恵内村）



◆図表ウ：1階への浸水を考慮した設計方式の新庁舎イメージ及び検証

イメージ図	検証項目	検証結果	
 浸水を考慮した空間設計や機能・部屋の配置 人の身長（およそ1.63m、日本人男性平均） バス車両高さ（およそ3.3m）	浸水防止性	浸水を考慮した建物1階は浸水するが、2階以上は浸水しない。	△
	日常利便性	道路・歩道と建物1階の高さレベルの差が少なく、アクセスは良いが、市役所窓口は2階以上となる。	○
	周辺親和性	周辺環境との親和性に優れる。	○
	コスト・工期	造成及び建築費用が最小となり、工期も最も短い。 浸水対策費用：1.3億円	○
	総合評価	日常利便性と災害対策の両立は図られるが、建物1階の機能は制限される。	○

御坊市新庁舎建設の基本的な考え方

(1) 安全・安心な庁舎

- ・防災拠点機能の導入、災害対策本部及び備蓄倉庫の設置、セキュリティ機能の強化

(2) わかりやすく親しまれる庁舎

- ・分散する庁舎機能の一元化、わかりやすい案内機能の設置、市民の憩いのスペースを確保

(3) 利用者にやさしい庁舎

- ・ユニバーサルデザインやバリアフリーの導入促進、誰にでもわかりやすいフロア計画

(4) 経済的・効率的で環境にやさしい庁舎

- ・省エネルギー化や自然エネルギーの導入促進、長期的に使用できる構造や資材の導入によるライフサイクルコストの縮減

(5) 議会施設の整備

- ・ユニバーサルデザインを考慮した傍聴席の設置、インターネット等を活用した情報発信

(6) 財政状況を踏まえた新庁舎建設の実施

御坊市の新庁舎の概要と概算事業費

新庁舎の面積 7,000 m²

(津久見市は6200m²の予定)

◆図表：概算事業費の算出

項 目	事業費
建設工事費	38.6 億円
解体工事費	5.1 億円
外構工事費（構内整備工事、自走式駐車場棟等）	10.8 億円
津波対策工事費（ピロティ形式及び建物 1 階にホール機能等を設置）	1.3 億円
設計監理費等（基本・実施設計費、工事監理費、地質調査費用等）	2.7 億円
合 計	<u>58.5 億円</u>

※事業費は概算で算出していることから、今後変更になる場合があります。

御坊市新庁舎の財源

財源内訳

項 目	金 額	備 考
庁舎建設基金	10.0 億円	平成 32 年度末予定額
<u>市町村役場機能緊急保全事業債</u>	※43.9 億円	
公共施設等の除却に係る地方債（除却債）	4.6 億円	
合 計	<u>58.5 億円</u>	

※市町村役場機能緊急保全事業債の金額は国が示す要件によって変更になる可能性があります。

市町村役場機能緊急保全事業債（起債充当率：**90%**、交付税措置：**22.5%**）
国において平成**29**年度から平成**32**年度（**2020**年度）までの時限措置とする特例債。
御坊市ではこの他に緊急防災減災事業債の活用も検討中です。

名屋地区避難タワー



御坊市津波避難地域解消イメージ



御坊市視察の感想



○市民にとって利用しやすい市庁舎づくりを心掛けている点。

- ・基本構想作成の段階で市庁舎を利用する方からアンケートをとり、市庁舎を利用する市民の声を基本構想の中に取り込んだ事。

○防災対策に複数の工法を検証し、他の市町村の事例も検証している点。

- ・基本構想作成の段階で他市町村の事例を取り上げ、基本計画の中でも複数の工法を検証しつつ、実際その他市町村の新庁舎の事例も検証している事。

○財源の工面を検討している点

- ・総事業費が58.5億円と巨額ながらも、その中で10億円を自主財源からの積み立てを充てつつ、残りの大半は市町村役場機能緊急保全事業債を使い、旧庁舎の取り壊しには除却債を充てています。またより有利な起債として緊急防災減災事業債が活用できないかを県と協議している事。

津久見市にとっても新庁舎建設は半世紀ぶりの大事業であることから、新たに作られる市庁舎が市民にとってより良いものとなるように、今後作成される新庁舎建設基本計画に対しては、今回の御坊市で学んだ事も反映されるように市議会として努めます。



視察地② 和歌山県白浜町

総面積 200.98 km²

人口 21,361人

世帯数 11,125世帯
(令和元年9月末現在)

視察目的

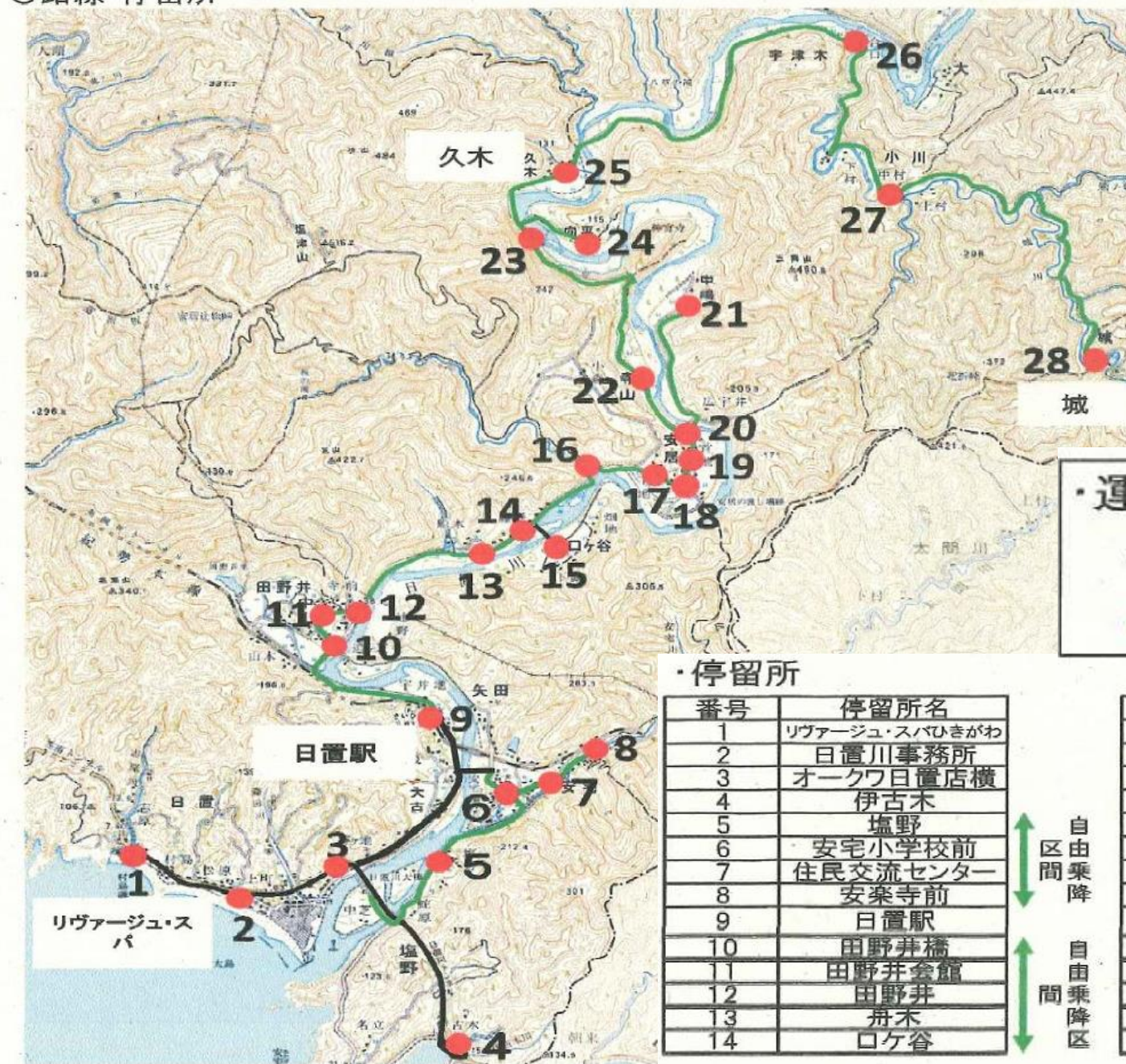
地域公共交通について
(コミュニティバスの自由乗降)
防災対策(津波)について

視察時の様子
(白浜町役場町議会
委員会室にて)



白浜町コミュニティバス 三舞線(令和元年10月1日～)

○路線・停留所



・運行路線



自由乗降区間

・停留所

番号	停留所名
1	リヴァージュ・スバひきがわ
2	日置川事務所
3	オークワ日置店横
4	伊古木
5	塩野
6	安宅小学校前
7	住民交流センター
8	安楽寺前
9	日置駅
10	田野井橋
11	田野井会館
12	田野井
13	舟木
14	ロケ谷

自由乗降区間

自由乗降区間

番号	停留所名
15	ロケ谷橋東詰
16	三ヶ川
17	宮前
18	安居
19	植野
20	首地
21	中嶋
22	寺山
23	えびね温泉
24	向平
25	久木
26	宇津木
27	中村
28	城

自由乗降区間

< 白浜町の防災の取り組み >

○情報伝達の取り組み

情報の伝達は屋外スピーカー(現在150基、今後更に50基追加整備)の増設 や個別受信機の貸与(無料、現在2300世帯へ配備)などの他に、白浜海岸に無料WI-FI環境の整備や、外国人観光客のための外国語での災害情報や観光情報を伝えるスマートフォン向けのアプリの活用も行っています。

○津波避難路等の整備

津波避難困難地域の解消対策として6本の避難路整備と避難タワー4基の整備と津波救命艇1艘の配備をしています。

○町内のホテル・旅館との災害協定の取り組み

白浜町は昔からの温泉地として有名で観光客も年間350万人訪れる地域であることから、町内のホテル・旅館の21施設と災害時に一時避難者を受け入れる災害協定を結んでおり、災害時には最大3100人の避難者受け入れの取り組みを行っています。

○その他の取り組み

自主防災会が行う事業に補助金を交付する他にブロック塀等の撤去費用の補助や、高齢者・障がい者の世帯に家具転倒防止器具の取り付け事業も行っています。

ご静聴ありがとうございました。